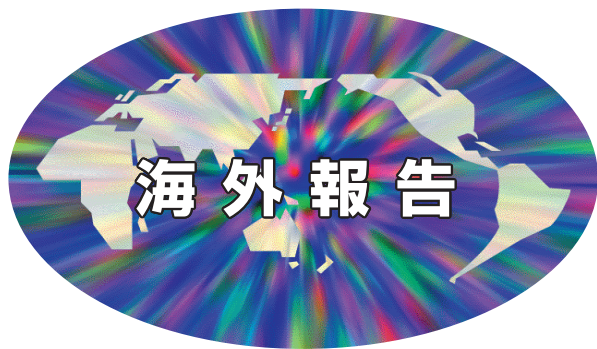




延辺朝鮮族自治州

— 東北に一番近い中国 —

中国・吉林省・延辺朝鮮族自治州の延辺大学が主催した日中韓のシンポジウム、『東北亜細亜地区肉牛産業発展戦略国際学術会議』に招待された。講演者は中国が延辺大学と地元企業、韓国と日本からは大学と政府系研究機関の研究者等で、聴衆は延辺大学の学生、教員、省研究所や企業などの研究者である。事前の連絡で「プレゼンと資料は日本語をお願いします。」と奇妙なリクエストがあった。話を聞けば、ここの先生方（50歳代）が学生時代の選択外国語は英語、ロシア語、日本語で、朝鮮族はハングル語と全く同じ文法の日本語なら高得点が取れるので日本語を選択したようだ。その結果、朝鮮族の先生方は英語よりも日本語の方が理解できる。一方、漢人は文法で共通点の多い英語を選択し、今の学生も第一外国語は英語である。こうなるとプレゼンの言語と理解できる聴衆は表に示す関係になる。なるほど、主催者は日本語、ハングル語と漢語の方が全ての講演を理解し易い。

延辺朝鮮族自治州中、最大の町、延吉市は仙台から長春市経由で4～5時間で着く。朝鮮族の人口比は過半に満たなくなっているが町中

東北飼料イネ研究チーム

押部明德

OSHIBE, Akinori



(現地にて)

の表示は漢字とハングル文字の併記で、会話も朝鮮族同士はハングル語。そこに漢人が加わると漢語に切り替わる。地理的には図門江で北朝鮮と接しているが、経済的には韓国との繋がりが強く、韓国への出稼ぎが朝鮮族の比率減少の一因になっているらしい。ここの朝鮮族と漢人には南の広東人のような「せわしなさ」が感じられない。スローな雰囲気と河岸の水田、その後ろに広がるリング畑の風景は日本の北東北とどこか似ていた。



延吉市・布尔哈通河岸の風景

表 プレゼンの言語と理解できる聴衆の関係

聴衆	プレゼンの言語			
	日本語	中国語	ハングル語	英語
日本からの参加者	○	×	×	○
韓国からの参加者	×	×	○	○
延辺大の朝鮮族教員	○	○	○	△
延辺大の学生	×	○	○	○
中国側の漢人	×	○	△	○

TOPICS

平成22年度革新的農業技術習得支援事業における農政課題解決研修「水稲の直播栽培技術」

東北農業研究センターにおいて、6月29日～30日の2日間、岩手、秋田、山形、茨城、三重の5県から、水稲、麦、大豆作を担当する11名の普及指導員等の参加を得て、標記の研修を実施しました。本研修では、当研究センターが開発した水稲の直播栽培技術として、大規模経営向けの省力技術となる「グレーンドリルを活用した乾田直播技術」と「鉄コーティング種子による寒冷地向けの湛水直播技術」を紹介しました。また、乾田直播に適した施肥管理技術、直播水稲に適用できる雑草対策、今後ニーズの高まりが予想される飼料稲の直播栽培技術等についての講義がありました。各講義では、受講者が担当する地域への技術導入に向



講義風景



乾田直播圃場

けた意欲的な質疑や意見交換が行われました。

試験圃場の見学では、FOEAS（地下水位制御システム）を施工した圃場での乾田直播栽培の状況を説明し、この技術を導入するメリットについて意見が交換されました。水稲の乾田直播を輪作に組み入れた圃場では、輪作栽培に導入する作物のローテーションや作業機の説明後に、受講者は乾田直播の水田に入り、播種床の堅さを体感するとともに、前作物の雑草化がない状況を観察しました。また、大規模水田の試験圃場では、直播に使用するグレーンドリルや碎土、鎮圧に用いる作業機の構造に触れることで、現場作業の具体的なイメージを得てもらいました。

講義と試験圃場見学を終えて、受講者からは、「これから直播栽培を地域に広めたい、雑草防除等の講義は大変参考になった。」との声が聞かれました。アンケートにも最新の情報を得て、受講者の業務に役立つ内容であったとの感想が寄せられ、本研修を有意義に終えることができました。（業務推進室運営チーム 及川博幸）